

＼景観づくりの基準を考えよう／

第1回 ニシカタ地区 景観勉強会

景観形成重点地区ってなんだろう？

開催日時：2025年11月18日（火）19:00～20:30
会場：沖縄県立芸術大学首里当蔵キャンパス 一般教養棟 302教室

第1回のゴール（目標）

- 今回の勉強会では、市内で“景観形成重点地区”としている3地区的事例を紹介し、重点地区の制度や基準などについて、知つてもらうことをめざします。
- また、ニシカタ地区のいまの景観について、改めて考えたうえで「将来、どんなまちになつたらいいかな？」とお互いのイメージを出し合う場になることをめざします。
- 次回以降の勉強会で話し合う、基準の内容や範囲の検討に向け、課題の整理や将来像のイメージが進むことをめざします。

プログラム

- ・開会のあいさつと説明……………(10分)
- 【第1部】事例研究……………(25分)
 - ①②③資料説明
 - ★ワーク1 3地区の変化や効果は？
- 【第2部】ニシカタの景観を考える……………(50分)
 - ④⑤⑥資料説明
 - ★ワーク2 地区のいまとこれからを考えてみよう
- ・次回にむけたアンケートの記入……………(5分)

第1回 景観勉強会の流れ

【第1部】事例研究

① 市内重点地区の取組みについて

- ▶首里金城地区・龍潭通り沿線地区・壺屋地区の概要
- ▶金城町と壺屋では、中心部と背後地でゾーン分けされており、背後地の基準はゆるやかに運用
- ▶それぞれ約20年が経過し、徐々に歴史的な風情のあるまちなみとなっている

② 市の助成制度と重点地区の位置づけ

- ▶市では、一定の条件を満たす修景工事（赤瓦屋根工事や石張り工事など）に対して100万円を上限に助成

③ 3地区的アンケート結果（速報版）

- ▶「重点地区に指定されていることについて」とても良かった・まあ良かったと感じる方が、各地区7~8割
- ▶「建築の制限や維持管理の負担」について、金城地区では負担に感じる割合が高い



【第2部】ニシカタの景観を考える

④ まちの成り立ちをふりかえる

- ▶王朝時代は、地区一帯に士族の屋敷が、池端町には市場があり、賑わいを見せていました
- ▶首里城を起点に各方面へ向かう道があった

⑤ まちなみをつくる景観要素のいま

- ▶みち・石垣・植栽・赤瓦の屋根などの景観要素の分布状況を、地図上で客観的に把握
- ▶樋川（ヒージャー）や井戸（カー）からは昔の姿を感じられるが、地区内では住宅の建て替えが進み、往時の石垣が減っている



⑥ 写真でまち散歩

- ▶モノレールや虎頭山、首里城から地区全体の景観みてみる
- ▶宿道やスージグワーなど、歩いたときの目線でまちの様子みてみる

★ワーク1★ 3地区的“変化”や“効果”は？

～事例をもとに重点地区の意義や運用を考えてみよう～

3分

各自で書き出してみよう！

「いいね！」
と感じたこと

1分

簡単に自己紹介
(ゆかりのある地域とお名前)
+
書き出したものを各自
1分程度で発表

5分

グループ内で共有
コメントを分類したり
整理をしてみよう！

★ワーク2★ ニシカタ地区の“いま”と“これから”を考えてみよう

～現状をみて、課題は何か考えてみよう・将来のイメージを膨らませてみよう～

5分

各自で書き出してみよう！

いま
「いいね！」
と感じたこと

いま
「気になった
こと」

これから
「こうなつたらいいかも！」

1分

書き出したものを各自
1分程度で
発表

10分

グループ内で共有
コメントを分類したり
整理をしてみよう！

3分

ワーク1と2の内容を
グループごとに
発表
発表者は、希望者か
ファシリテーター
のどちらでもOK！

